

わたしたちの秋篠川（第4学年）

奈良市立平城西小学校 西口 美佐子

1 ESDを生かした授業づくり

(1) 単元名 「わたしたちの秋篠川」 小学校第4学年

(2) 単元の目標

- 秋篠川に桜の木を植えるようになったいきさつを理解し、ゴミ拾いを通して、秋篠川を大切にしようとする地域の方の思いに共感することができる。 【知識・技能】
- 秋篠川のごみを減らす方法を考え、創意工夫をしながら制作活動に取り組むことができる。 【思考・判断・表現】
- 秋篠川について、意欲的に話を聞き、清掃活動や制作活動にすすんで取り組むと共に、これからの秋篠川との関わり方について考えることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 単元について

・教材観

本単元は、学校の近くを流れる秋篠川の清掃活動を通して、環境問題を学び、地域のために自分たちにできることを考えて行動することにより、持続可能な社会を構築するための基礎を築くことをねらいとした。

秋篠川は、隣接している鶴舞小学校の校区にある大淵池を源流に大和郡山市に流れ、佐保川に合流している川である。奈良時代から存在しており、平城京の物資を南北に運ぶ重要な川で、「西の堀河」とも言われていた。そのために当時、秋篠川の付け替え工事が行われている。なお、大淵池は江戸・元禄時代に今井善五郎が約9年間かけて完成させたため池なので、おそらく奈良時代は、その近隣の雨水などが集まって川となっていたのではないかと思われる。本校はその上流に位置している。

本校区を流れる秋篠川は、現在、土手を一部コンクリートで固められたところがあるものの、自然な様相の土手が大半で、横には遊歩道が備えられている。周りには田畑も残り、のんびりとした景観を楽しめるところである。しかし、以前は、自転車など様々なごみが捨てられていた川であった。

地域の人々が、秋篠川をきれいにするために川沿いに桜の木を植えればどうかと考え、平成8年、奈良市制百周年記念事業に応募したところ、その計画が選ばれた。その機に「秋篠川源流を愛し育てる会」が発足し、平成10年に118本の桜の木を植え、同時にその世話と親睦のために里親を募集した。現在では、154組が里親になっている。本校もその一員である。会では、月1回第3土曜日に清掃活動を行うほか、4月には桜祭り、5月には親子で川遊び大会などを企画している。

このように秋篠川は地域の人々の手によって大切に守られている。

・児童観

児童の3分の1程度は、秋篠川の遊歩道を通学路としており、日々のどかな田園風景の中を登下校している。しかし、児童にとってはそれが当たり前の風景であり、なぜ桜の木が植えられるようになったのかといういきさつはほぼ知らない。

桜が咲く4月に行われる桜祭りや5月の川遊び大会には、親子で参加する姿が見られ、参加人数も初期よりは増えつつあるが、月1回行われている清掃活動に参加している児童はいない。

一方、学校では、地域の方の依頼を受けて、毎年4年生が秋篠川に関わる俳句を作成している。その前段で秋篠川の探検を行うときは関心が高まるが、なかなか持続しないのが現状である。

・指導観

まず、秋篠川の昔の写真と最近の写真を用意して比較することにより、児童には当たり前である桜の木がある風景が、実は最近の活動によるものだということ、また、桜の木を植えたことによって景色が一変したことに気付かせたい。その後、植樹を計画した方の話を聞き、秋篠川を美しい川にしたいという強い思いを語ってもらい、その熱意に触れさせたい。

そして、その方と共に秋篠川を掃除する計画を立てて実行し、どんなゴミがどのあたりに落ちているかを分析したい。ただし、時間的にも安全面にも配慮も必要なので、清掃範囲はあまり広げないようにしたい。

そのごみの分析を生かして、ごみを減らすにはどうしたらよいかをグループごとに考えさせ、制作活動に取り組みさせたい。このことにより、児童の心の中に、秋篠川は自分たちが守っていかなければならないという意識を植え付けたい。

さらに、奈良の美しい風景として有名な佐保川の桜を取り上げ、川路聖謨の植桜楓之碑に書かれている内容を知らせることにより、昔の人も今の人と同じような思いをもって活動していたことに気付かせたい。そして、自分たちの秋篠川の桜もその美しい風景と共に大切に守っていかなければという思いを強くもたせ、行動化につなげたい。

・ESDの視点

本単元のESDの視点として、一連の学習活動を通して、「秋篠川源流を愛し育てる会」の方々や里親の人達、また清掃活動に参加している人たちなど、秋篠川を守るためには、多くの人々が協力することが必要であること（連携性）に気付かせたい。そして、地域を流れる秋篠川を美しい川にするために、自分たちもその一員であることを自覚し、できることを考えて行っていく（責任性）態度を養いたい。

(4) 評価規準

ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学習に取り組む態度
<p>①秋篠川を大切にしようとする地域の方の思いに共感している。</p> <p>①ごみの分別結果を適切にまとめている。</p>	<p>①ごみの分別結果からごみを減らす方法を考え、工夫して表現している。</p>	<p>①清掃活動や制作活動にすすんで取り組んでいる。</p> <p>②秋篠川を自分たちで守っていこうと自覚している。</p>

(5) 単元展開の概要 (全6時間)

時	主な学習活動	学習への支援	評価・備考
1	<p>1 秋篠川の昔の写真と今の写真を比べる。</p>	<p>◇秋篠川の昔の写真と今の写真を用意し、比較して見せ、桜の木が植えてあることに気付かせる。</p>	
	<p>なぜ、秋篠川に桜の木を植えたのだろう。</p>		
	<p>2 予想を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなを楽しませるため ・人が集まるように ・秋篠川をきれいにするため <p>3 秋篠川源流を愛し育てる会の方に話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桜の木を植えたわけ ・桜の木を植えたいきさつ ・里親制度 ・清掃活動 ・秋篠川に対する思いなど 	<p>◇桜の木を植える前の秋篠川は、ゴミがたくさん捨てられていたことを知る。</p> <p>◇秋篠川源流を愛し育てる会の方が、秋篠川を大切に思っていることに気付かせる。</p>	<p>◆秋篠川を大切にしようとする地域の方の思いに共感している。 (アー①)</p>
2 3	<p>4 秋篠川の清掃活動を行う計画を立てる。</p>	<p>◇秋篠川源流を愛し育てる会と連携して行う。</p>	

	<p>5 秋篠川の清掃を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃する。 ・ごみの分別をする。 	<p>◇ごみをグループごとに集めて分別し記録しておく。</p>	<p>◆清掃活動に積極的に参加している。(ウー①)</p> <p>◆ごみの分別結果を適切にまとめている。(アー②)</p>
4 5	<p>6 秋篠川のごみを減らす方法を考え、制作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看板を立てる。 ・ポスターを張る。 ・秋篠川について学習したことを広報する。 	<p>◇ごみの分別結果からごみを減らす方法をグループごとに考えさせ、交流させる。</p>	<p>◆ごみの分別結果を分析し、ごみを減らす方法を考えている。(イー①)</p> <p>◆秋篠川のごみを減らすために、工夫して表現している。(イー①)</p>
6	<p>7 佐保川に桜を植えた川路聖謨のことを知る。</p> <p>8 これからの秋篠川と自分との関わりを考える。</p>	<p>◇佐保川の桜の写真を見せ、植桜楓之碑に書かれた川路聖謨の思いを紹介する。</p> <p>◇秋篠川に桜の木を植えた人々の思いを改めて考えさせる。</p> <p>◇地域にある秋篠川を自分たちで守っていかなければならないことに気付かせる。</p>	<p>◆秋篠川を自分たちで守っていこうと自覚している。(ウー②)</p>